# 金幣曽我玉物

きんぺいそがのたまもの

瀬川如皐原稿　種清録

國芳畫　板元　甘泉堂

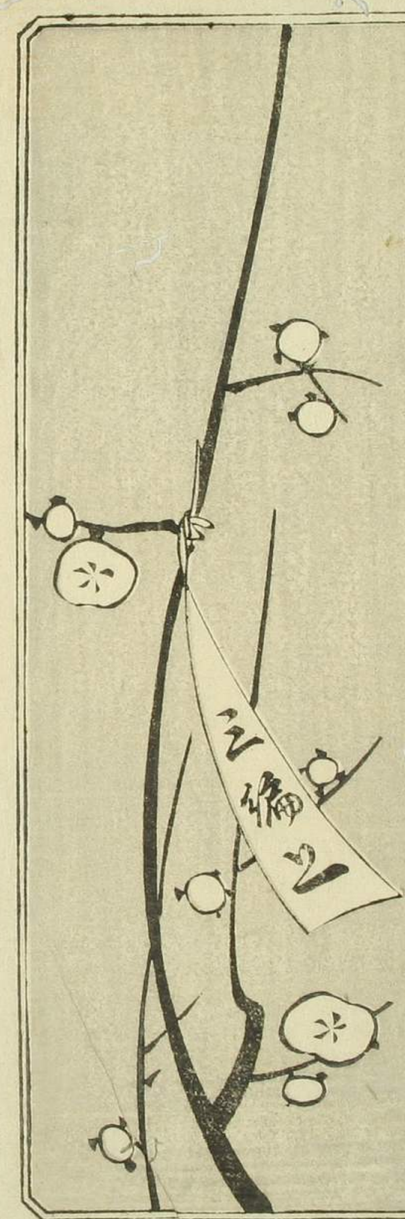
へ違 13
2.060
2止

門へ 13
號 2060
巻 1

瀬川如皐原稿　柳水亭種清録

# 金瓶梅我賜實

一勇齋國芳画　甘泉文慶合梓






羅貫仲の虎ハ日本の犬より用ひ易きゆ馬琴翁が於兎ハ白昼
蛍を尋る育ー。這巻ゆ締語瀬川大人の當樂ハ理ゆ責らゞ。屈み
困ぜ。首の醞場ゆ白虎堂を営ん。其白虎をく武松ゆ貶も武松ゐ
綺語の武松なれゞ。張古の虎をより殺も。十五人張のより強き発利と
いきぢに桃節を繋めゝ強弓とるを元い足の力味ゆ附の柝を鳴突峠
の松山嶺ゆハ山風ゆ鐃をぶせ。虎狩の猛威を听ーむ。嗚呼面白ー首ゐ白
き虎ゆ黄める色を彩ーい金瓶梅の
黄金色ゐを合巻の意を合ゆるゆを

柳水亭種清述

大原武二郎武松

武太郎の怨霊

武二郎武松
鴛鴦樓の艶
席ゐ潜ろうて
兄の仇懐と
遂る猫相

多金の阿蓮
西門屋啓十郎

白虎堂

松

いろは文庫

玄兎 補助

種ひさ

画芳 清げ

彼名 反古一休草紙 十二編 種久作 画芳画

風俗浅草嶽 種法さく 八編九冊 画芳画

夢金水 十編 歌川芳画

大盃童 永 種久作

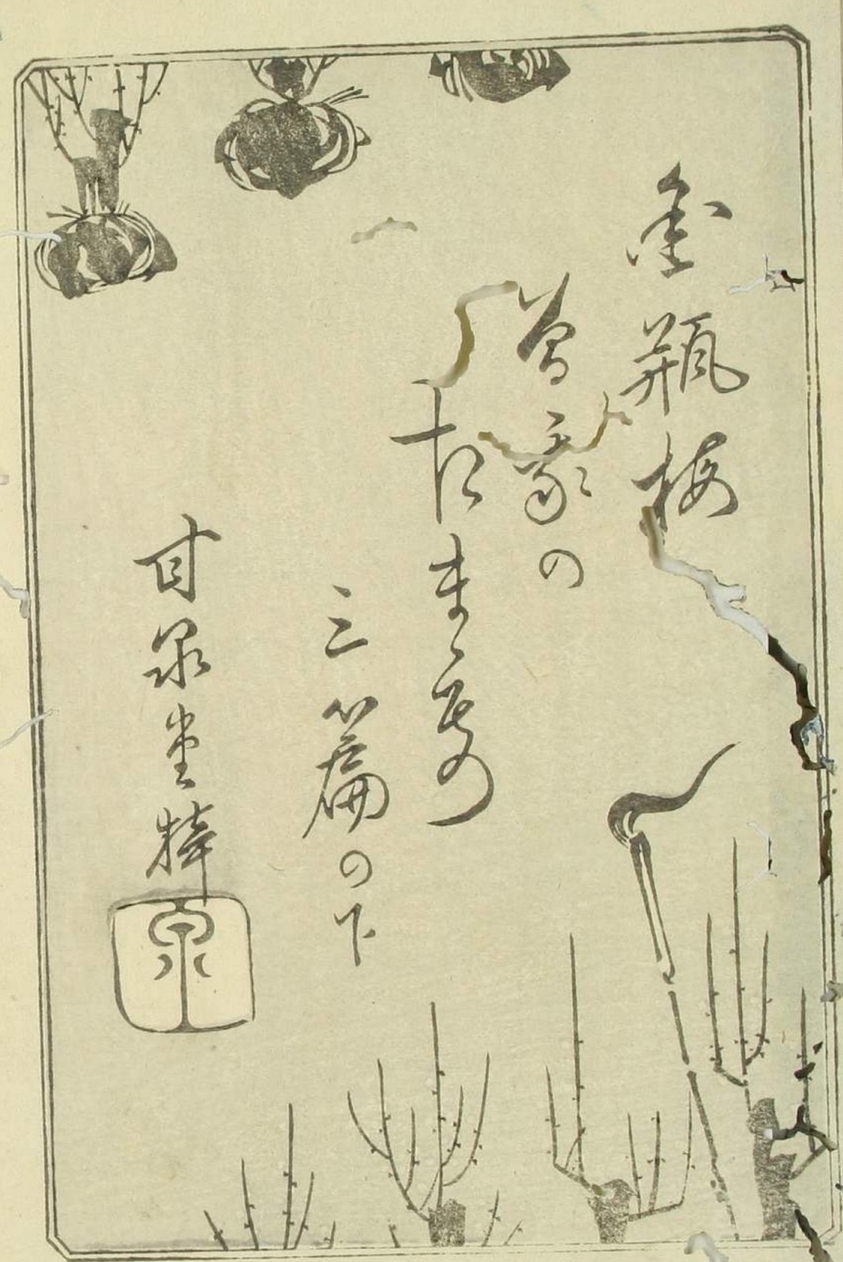
新編金瓶梅 初編 琴作 十冊 大尾 豊画画

泉市板
下

# 金瓶梅

## 第壹の書

### 甘露堂主人



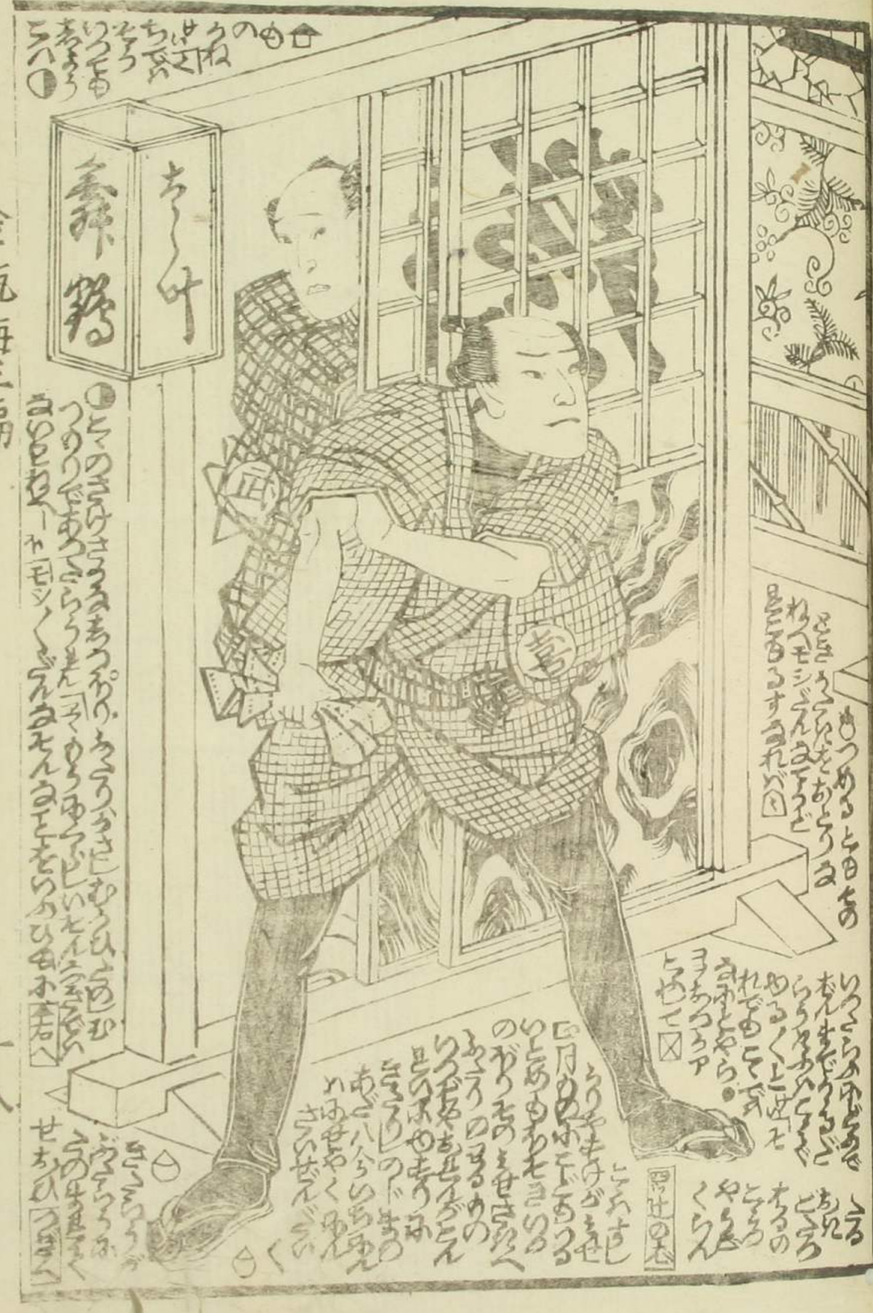
蓮


松

潮


潮

長谷寺門前町



國芳画
種清綴

画幼　歌川國芳
芳春
ぎょうのようくわのり
をろちのこうもんる

児雷也竜傑譚
拾六番　拾七番
拾八番　拾九番
四十番
仕出　柳亭種清

妹背山女庭訓　種清仕
二編よりつづき　芳虎画

不思議婦小橋ざくら　種清仕
一曙斎国芳画
一宝斎芳春

仮名手本忠臣蔵　二編続切
隅田川月屋夜織角

安政七申春發行　甘泉堂　和泉屋市兵衛板

上

# 金瓶梅

## 普賢娘

四編上の巻


稗清招緑園主人

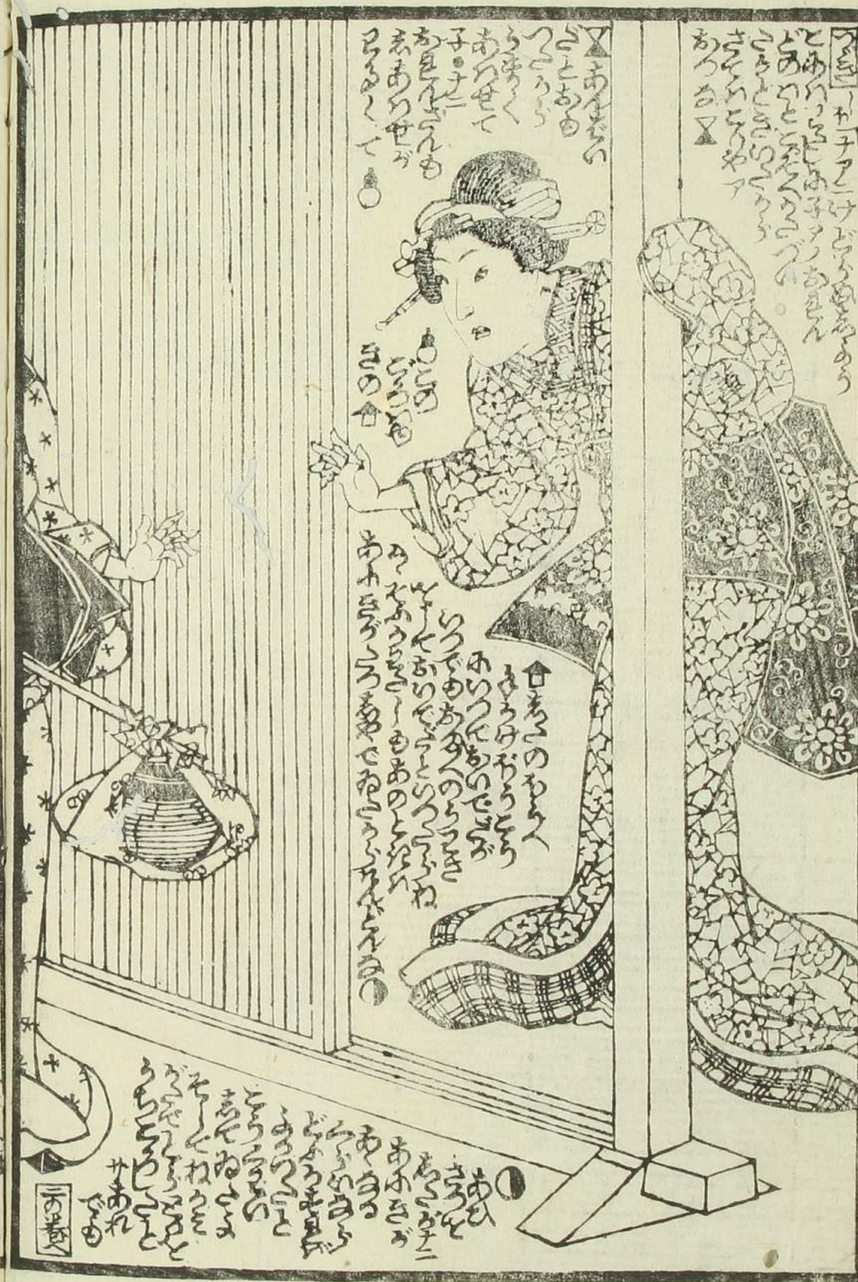
文芸堂梓

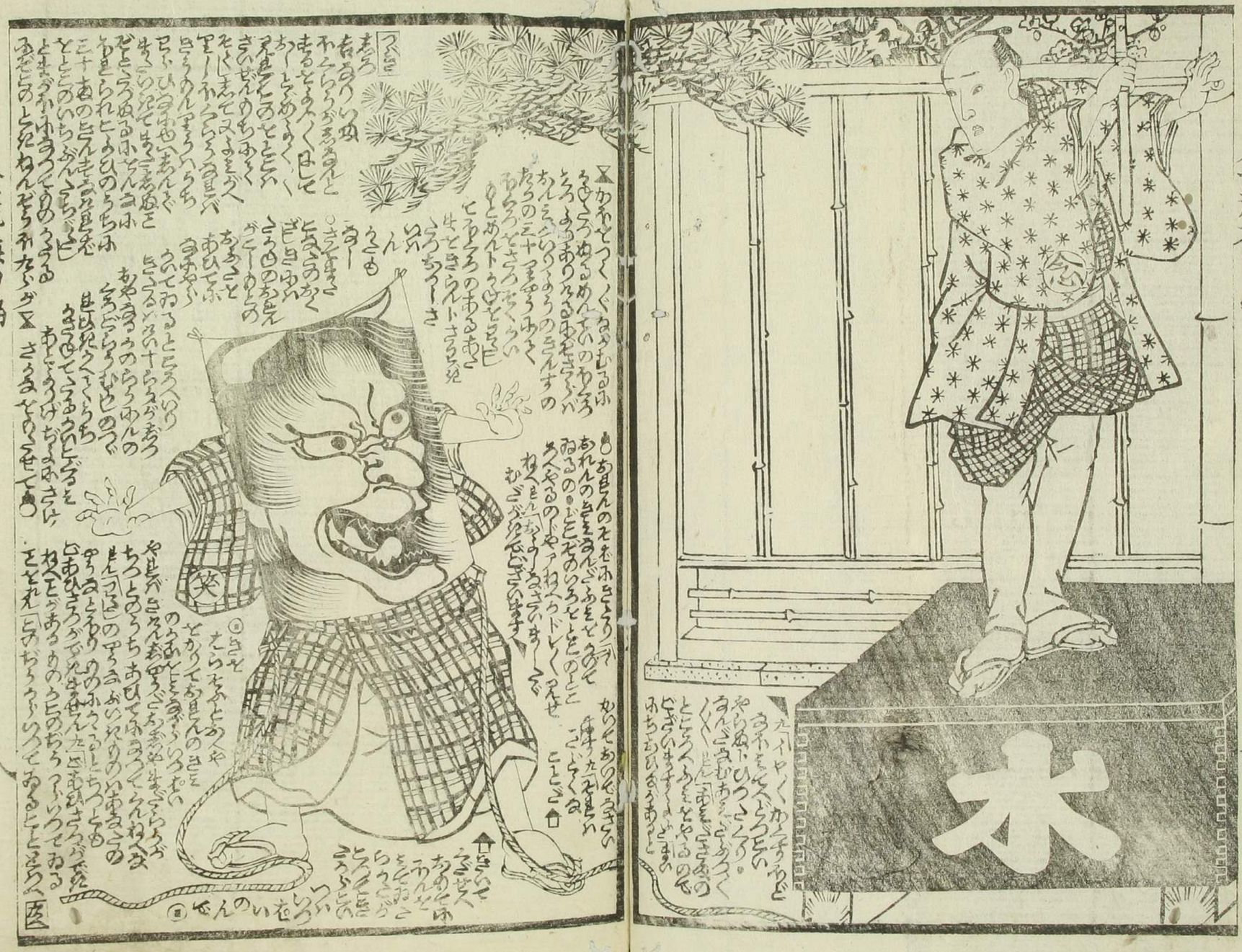
前面ハ虎穴ノ
苦と重き此ハ
竜宮の樂と猫
と発端竜虎
山のゆえと
符結ス

蓮
朝

連

海
正




金瓶梅四編
木
笑

## 文慶堂藏板略目録

新撰 柳亭記 初編より 追出版

永代高麗往来 両講 叡附

家訓 消息往来 近刻

農家必要 田舍往来 近刻

源氏銘刀誌 中一本 一冊 近刻

初編 二編 三編 百人一首姫文庫 百人一首の世に知られたる姫たちの名を集めたる物語なり

初編 二編 三編 小唱文庫 当時流行の俗謡を集めたるもの

地本草紙問屋 人形町通 堀留町 大國屋金治郎

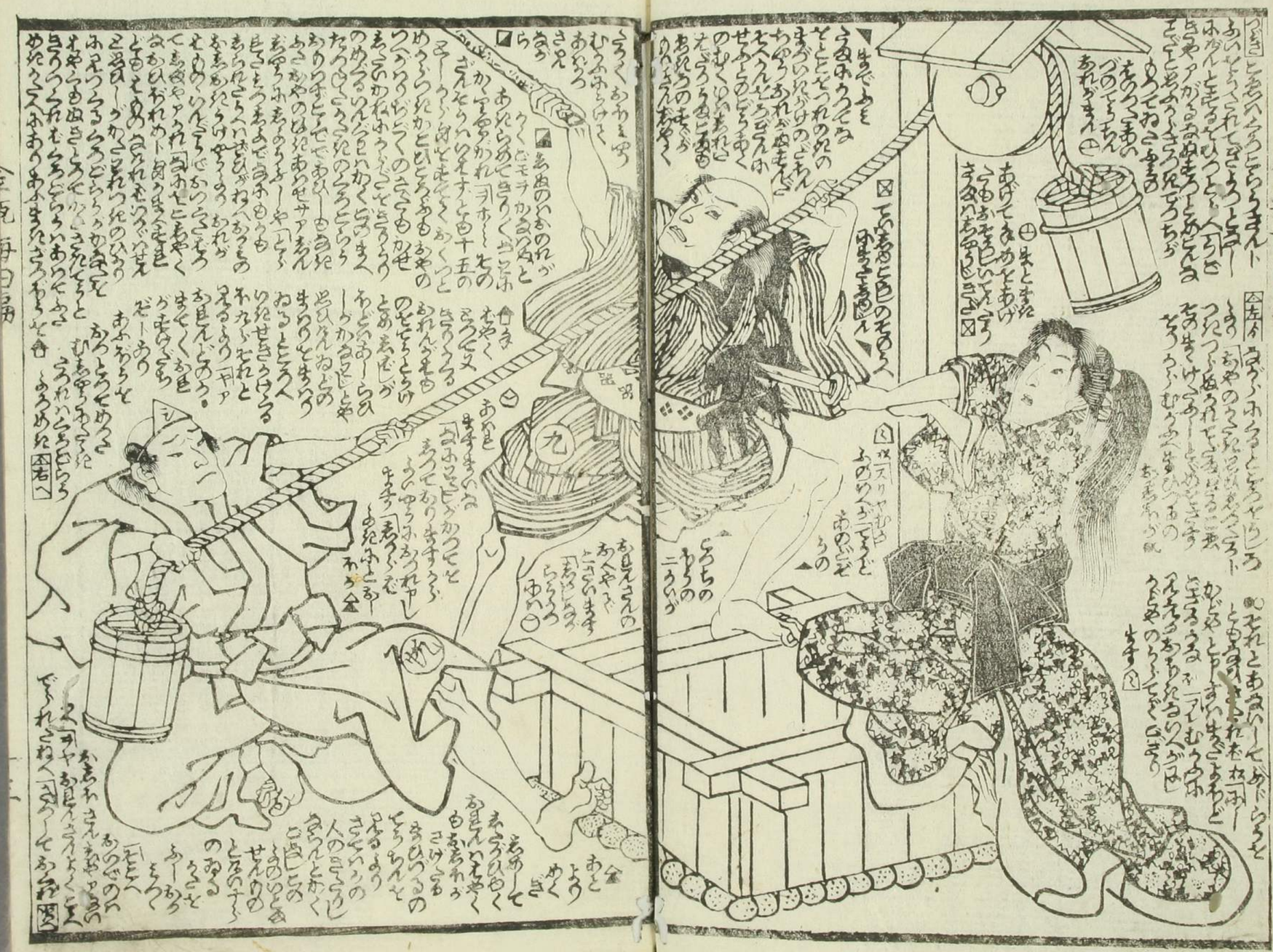
下

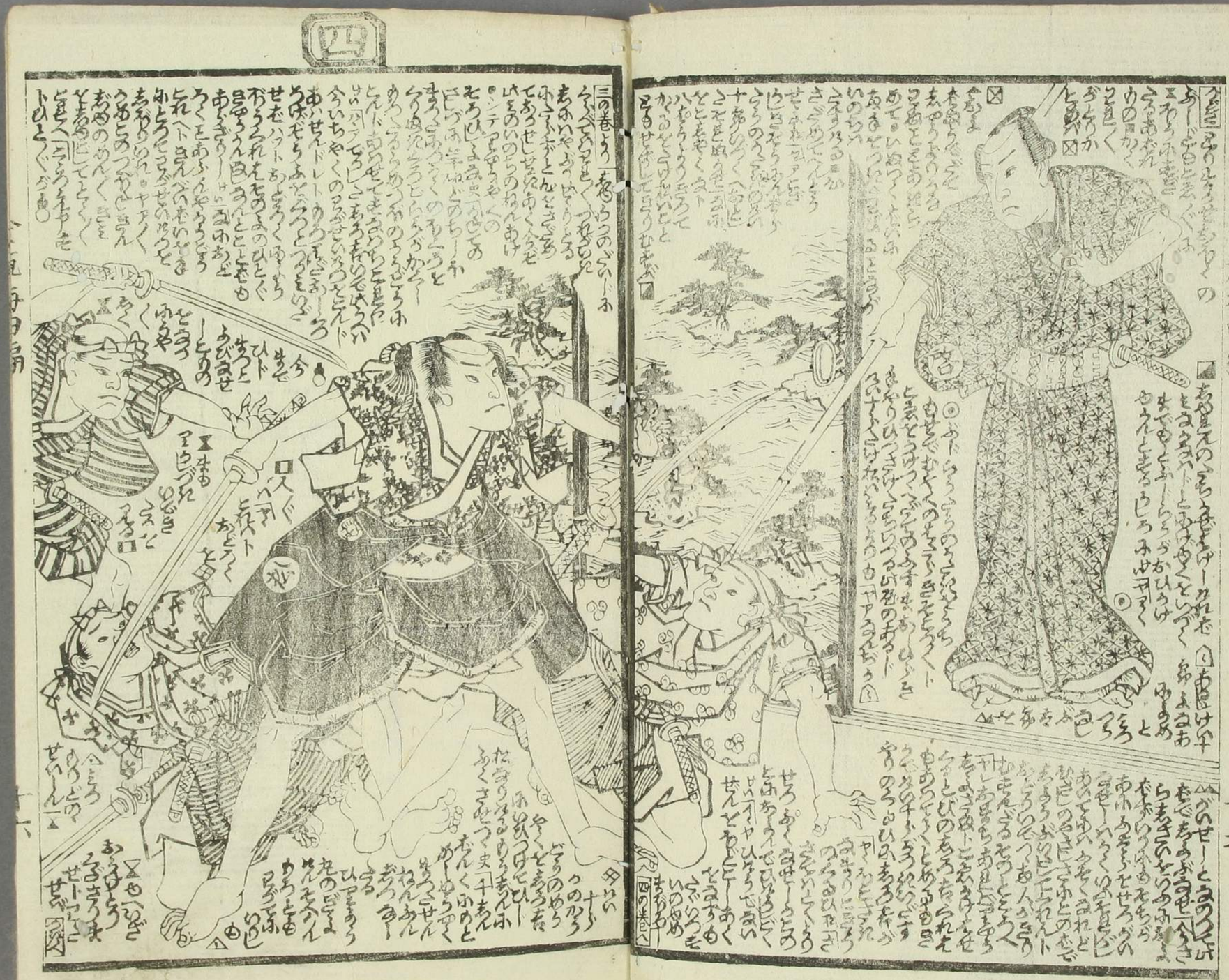
# 梅我曾鴨

宝

歌川国貞
木金画

金瓶梅
当我社四角ん
九まるの下の
九拍子代作新
久ゑよりあこのく
大金ちん
三
啓
野





刑
音
刈

# 種清綴

國芳画


安政七庚申歳新發行目録

宮戸川の往昔と春七　川如泉作
救世姑智達歴軸　鞆繪紋劇譚　三人歌川國貞画
武勇熊谷堤の地蔵尊の由来のさまを
けるひとこと
三人娘紺屋小說　初編　同作　二編　同画
この双六は近ごろ流行する大形七枚
十二月の中初日より八月中旬まで
下ゲ
ごきこうの色きりのこと

新撰　四季のたのしみ　遊山壽古六

彩扱　猫引むさし

地本草紙問屋　人形町通堀留町　文慶堂　大國屋金治郎

柳亭[illegible]清編

歌川國芳画

# 金瓶梅[illegible]花贈答

第四編

大尾

甘泉堂

文慶合梓